

壮年会だより

平成23年3月度中原寺仏教壮年会だより Vol.1



桃の節句、啓蟄を過ぎ春の足音が力強く聞こえる季節になりました。会員の皆様にはご清栄の事とお慶び申し上げます。去る1月30日の中原寺壮年会総会において平成23年の「会報担当の理事」を仰せつかった高木、杉田、河合、福島で御座います。これから1年間「壮年会ニュース」発行して、中原寺境内・外での出来事を報告して、会員の皆さんと当寺に関する情報を共有し、相互の親睦強化に努力してまいります所存です。発刊は年4回(3、6、9、12月中・下旬)を予定しています。情報やアドバイスの提供等皆様のご支援をお願いいたします。

前任者の多田麗(会長)さんは、大変きめ細かく、情報を収集し流麗な文章と鮮明な画像で会報の編集・発行に尽力されて来ました。一方、私たちは未熟につき到底そのレベルには及びませんが、ご容赦のほどお願いいたします。

共に浄土真宗を信順する同朋として「親鸞聖人」のみ教えに従い、「安穩にして心豊かな」日々を享受し得たことに感謝して「南無阿弥陀仏」の御恩報謝の念仏を唱えさせて頂きましょう。

(合掌)

1月の行事 January

◆1月1日(土)【元旦修正会・ご流盃の儀】

今年も良く晴れた元旦の朝、8時より元旦修正会が行われ新しい年を迎えました。参拝された門信徒が心新たに「正信偈」を高らかに唱和し、真実の教えに生かされる幸せを感謝し1年のスタートをふみ出しました。法話の後、参詣者一同でご流盃頂き、お終わって参詣者に京風雑煮が振舞われお互いに新年を祝しました。



◆1月30日(日)【平成23年度中原寺仏教壮年会総会挙行】

壮年会に先だち、水野さん、錦織さんのお手前で「お供茶」のもてなしがありました。会員全員がその接待をうけ、清らかな気持ちで新年の第一歩を踏み出しました。議事次第に従って、説明、審議、応答した。ほぼ原案通り可決、承認されたました。総会終了後、18時より、会館客間にて新年会を挙行。約2時間、飲食をしながら懇談した。



2月の行事 February

◆2月11日(土)【東京仏教社年会に出席】

築地本願寺において午前10時30分から挙行。参加者は300人前後、当寺からも9名が出席致しました。

所定儀式の後、利井唯明講師より講演。

- ・その概要は午前「親鸞聖人の教義の本質」、午後は「日常生活面での信仰のあり方」について言及された。
- ・「衆生はすべて凡夫であること」の自覚が大事で自力では往生は出来ない。阿彌陀仏の「本願力」によってしか往生は出来ない。
- ・阿彌陀仏の教えに信順して「南無阿彌陀仏」の念仏を唱えるしかない。
- ・日常生活の上では、「聴聞」「聞法」に励み「仏の教え」を理解し、「智恵」と慈悲でもって利他を実践すべきである。
- ・法座の後、近くの寿司店で一献傾けながら懇談した。



3月の行事 March

◆3月18日(金)～24日(木) 春季彼岸会

◆3月21日(月) 春分の日 祝日 彼岸会法要 午後1時 浄土に心を向け、仏徳を讃える。講師：住職

壮年会長就任ご挨拶

中原寺副住職 平野俊斉



平素より中原寺の活動にご参加、ご協力いただき、誠にありがとうございます。

この度、中原寺仏教社年会会長を務めさせていただくことになり、ご挨拶申し上げます。

壮年会は今年で結成30周年を迎えます。結成当時4歳の幼稚園児だった私が、30年の時を経て会長の任をお引き受けすることにその歴史を感じずにはられません。私が京都での学生生活を終え、中原寺での法務を本格的に始めたころから壮年会法座の席において皆様より様々なお話を聞かせていただきました。多くの方とのお話の中で、壮年会入会の時期や経緯は違えども、親鸞聖人のそのご生涯を通してお伝えくださったお念仏のこころを学び、ともにお念仏する仲間に出会う喜びの中で結成・活動されてきたのが壮年会であるとお聞かせいただいております。

時代の過度期にある今だからこそ、壮年会の活動を通して何が出来るのか、何をしなければならぬのかを改めて皆さまでともに語り合い、実りある会の運営を目指していきたいと思っております。

また今年がご本山において親鸞聖人750回大遠忌法要がスタートする年でもあります。中原寺においても来年の法要動修に向け、様々な記念事業が予定されています。壮年会会員の皆様においては今まで以上にご協力をお願いすることになるかと思っておりますが、何卒若輩な新会長をご支援下さいますようお願い申し上げます。

新役員紹介

平成29年3月現在

1	会 長	副住職	平野 俊 斉
2	理 事	監事、年末懇親会担当	宇佐美 勇
3	理 事	監 事	麻 木 隆 一
4	理 事	副会長	石 井 保
5	理 事	結成30周年記念担当	河 合 功
6	理 事	会報担当	河 合 朋 央
7	理 事	副会長、浄土園担当	片 山 晴 司
8	理 事	会報担当	杉 田 善 久
9	理 事	会報担当	高 木 史 人
10	理 事	会 計	多 田 颯 健 二
11	理 事	結成30周年記念担当	奈 良 徳 弥
12	理 事	副会長、浄土園担当	野 上 茂 樹
13	理 事	会報担当	福 島 秀 昭
14	理 事	結成30周年記念担当	福 島 道 宏
15	理 事	浄土園担当	宮 下 忠 久
16	理 事	会計、浄土園担当	村 田 太 聖 夫
17	理 事	副会長	山 奥 勇
18	理 事	年末懇親会担当	山 田 肇 彦
19	理 事	年末懇親会担当	横 田 豊 一

(敬称略)

【タイにおけるマングローブ植林活動と本の出版】

〔なぜマングローブ植林をはじめたのか？〕

建設会社の研究所に勤務していた1992年に、日本砂漠学会の活動の一環としてマングローブ研究者の加藤茂先生（当時・東京農業大学）と知り合いになり、先生に西表島のマングローブ林に連れて行っていただきその魅力に取り付かれた。当時（1995年）会社では、自然生態系保全の研究開発を担当しており「自然生態系とは何か？」を書物で勉強していたが、マングローブ林の中で、そこで生息している様々な生物のいとなみを肌で感じた時「これが生態系だ！」と実感できた。そして、1994年から毎年、タイのバンガ県・ブーケット県・クラビ県での植林活動に関わってきた。

マングローブ林は、熱帯や亜熱帯の沿岸や河口の海水と淡水が混じりあうところ（汽水域に）生育している塩性樹木群の総称である。世界のマングローブ林の総面積は1500haで、これは世界の森林面積の0.4%にもすぎないが、世界の漁獲高（1億トン）の20～30%がマングローブ林とその周辺の海域から水揚げされている。このように、マングローブ林は生物の宝庫（生物のゆりかご）であり、また、波や潮流の力を受ける沿岸域の防波堤や防風林としての役割もある。

タイのマングローブ林は1961年に37万haだったが、スズの採掘・エビ養殖池の建設・工場や住宅観光施設の建設のために伐採され、1979年には29万ha、1993年には17万haとなり、30年間で半減した。このような状況に対して、タイ政府によるマングローブ保護政策として、1980年にマングローブ地域の開発規制、1991年にマングローブ再生計画の発表、1997年にマングローブの伐採・開発の全面禁止、2002年にはマングローブ保護のためのタイ王室海洋・沿岸資源局を発足させた。

〔スマトラ沖の大地震と本「100万本の海の森」の出版〕

活動が始まって10年目の2004年の春、この活動がスタートした時の研究会代表であった新田義孝先生（当時・電力中央研究所、現在・四日市大学）より、「10年目を記念して活動を本にまとめたらどうだろうか・・・」との話があったがなかなか具体化しないまま、2004年11月に植林（第11回目）を行い帰国した。ところが、12月26日朝、スマトラ沖大地震発生ニュースが報じられ、テレビからは「ブーケット・パトンビーチ・ピビ島・バンガ・カオラック・・・」といった耳慣れたカタカナが繰り返し流された。関係者はいても立てもいられない気持ちになり、2005年春、急遽あつまり議論の末、お世話になった現地へのお礼の意味も込めて記録を残すことを決意し、11月には書籍として出版することが出来た。

本の題名は「100万本の海の森：北星堂出版」、編集はタイ・マングローブ植林実行委員会。構成は、第1章では豊かなマングローブ生態系の説明、第2章は我々がなぜタイでボランティア活動を行ったのか？を解説、第3章では植林参加者19人の感想文、第4章は津波被害を受けた現地のレポート、第5章はマングローブ植林11年間のあゆみと植林参加者全員の名簿が掲載されている。

この活動のおかげで、退職（2007年6月末）後も年に数回タイを訪問し、植林したマングローブの生育調査、友人達との交流、お寺訪問や仏教行事体験などを楽しんでいる。

高木 史人 記

◆参考：タイマングローブ植林実行委員会
HP <http://www.mangrove.gr.jp/>



平成22年12月～23年5月壮年会行事

【12月の行事】

- 12月4日(土) 15:30～17:30
第4回中原寺門信徒役員会
- 12月19日(日) 13:00～16:00
第12回千葉組迎研(中原寺)
- 12月20日(日) 11:30～13:00
第3回 壮年会理事会
15:30～17:00
壮年会法話 講師:ご住職
18:00～20:00
年末懇親会
会場:「ニュージャルダン」
参加者28名
- 12月30日(水) 10:00～12:00
山門・石段清掃奉仕 参加者9名

【1月の行事】

- 1月1日(金) 8:00～15:00
元旦修正会・ご流盃の儀
- 1月23日(日) 13:00～15:00 定例法座
講師:渡邊恒行師(船橋浄興寺教会)
15:30 門信徒役員会
- 1月30日(日) 13:00～14:00 壮年会理事会
14:30～17:00 壮年会年次総会
14:30～15:20 お供茶
15:30～16:00
真宗宗歌・お勤め(正信偈)
16:00～17:45 総会
18:00～20:00 新年会
※当日、壮年会の年会費を受付致します

【2月の行事】

- 2月11日(金) 11:00～15:30
仏教壮年会東京大会
- 2月20日(日) 13:00～15:00
定例法座(壮年会法座併催)
講師:大江宏玄(練馬区敬覚寺副住職)

【4月の行事】 予定

- 4月3日(日) 10:00～
初参式
子どもの誕生のよろこびを仏祖に報告する。
11:00～
花まつり
子どもと共に釈迦さまの生誕を祝う。
13:30 【婦人会・壮年会合同法座】
※当日お手伝い頂ける方は午前10時
までにお集り下さい。
- 4月8日(金)～10日(日)
宗祖聖人750回大遠忌団体参拝旅行
- 4月17日(日) 10:00～
入門式 阿彌如来の教えに帰依することを
仏前に誓い門徒の一員となる。
13:00～ 定例法座
15:30～ 門信徒役員会

【5月の行事】 予定

- 5月7日(土) 10:00～ お仏具磨き・清掃奉仕
午後1時 婦人会法座(趣味講座)
- 5月22日(日) 10:30～
宿縁廟法要 宿縁廟での入廟者の法要。
11:00～
宗祖降誕会法要 親鸞さまのご誕生日を
祝い念仏の教えに感謝する。
13:00～
門信徒総永代経法要
故人を追慕し仏法を相続する。
講師:上田紀行氏(東京工業大学准教授)
※当日お手伝い頂ける方は午前9時30分
までにお集り下さい。

編集後記 (壮年会3月会報)

新任の会報担当理事による第1回会報(3月分)を刊行する事が出来ましたので、会員の皆様にご送付いたします。発行するにあたって、3人が文殊の知恵(ない知恵)を働かせた拙作ですが、皆様にご披露することによって批評を甘受することで、次回以降の参考にしより良き会報にしたいと考えています。

今後の編集方針に関して3人がメール及び面談によって、下記の通りの結論を得ましたのでご報告いたします。なおご異議があれば河合宛(*下記参照)にご一報下されれば幸甚と存じます

- 過去の行事内容、行事予定に関する記事は、住職執筆の「宿縁」と重複しないよう配慮する。壮年会掲載記事は、写真報道に専念し若干のコメントをつける。
- 壮年会活動に関わる記事は、重要出来事の特記事項として取り上げる。例えば、担当理事の所管事項を担当理事に情報を提供して頂き掲載する。例「壮年会発足30年活動の報告」「親鸞聖人750年大遠忌参拝旅行記」等のニュース。
- 中原寺プロパー行事については、壮年会会長(副住職さん)に該当行事の内容を報告してもらう。
- 会員相互の親睦進化のため、会員自身の中原寺との因縁、自身の信仰生活の在り方等の情報を交換し相互の理解を深められるように務める。毎回2名程度取り上げる予定です
- その他、会員自身の人生訓、世相所感等のエッセイを随時掲載。今回は高木さんの「マングローブ植林」の記事掲載
中原寺は俗世間の価値尺度を離れた世界であり、虚仮不実の現実に苦悩する私たちに「仏の真実の心」を教えて下さるまたとない「修行の場」と心得ています。壮年会の会員が、相互に同朋意識を持って助け合って生きていくことに寄与できれば幸甚と存じます。

*注1、河合 照夫の連絡先・電話:047-373-4426・メールアドレス:tekawai325@ybb.jp